

上田のフロンティア 食品向けペットボトル

10リットル入り用成形機 開発

けいぎい
信州発



フロンティアが中国の食品市場向けに開発した10リットル入りペットボトル成形機

ペットボトル成形機製造のフロンティア(上田)は、食用油メーカーに初めて納入した。大容量のボ市)は、食品用の10リットル入りペットボトル成形機を トルを量産でき、コストダウンにつながる。アピ新たに開発した。同社によると、食品用の機種と ールし、「中国で年間20台以上の需要が見込める」しては他社製にない大容量と生産効率を実現。主 としている。に中国市場をターゲットとし、1月末に現地の大

中国で年間20台以上需要見込む

新製品は、樹脂素材を試験管型に成形したプリフォームを金型に入れ、空気を送り込んで膨らませる主力のブロー成形機「FRB-6」を10リットル容量に応用した。ロータリー式で一度に6本を回転させながら成形でき、1時間に最大6千本の生産が可能。1台約1億円で一般的な機種より高価だが、中国の競合メーカー製品と比べて品質は高く、生産量も多い。大型充填機と直結でき、大幅にコストを削減できるとする。

同社によると、中国では近年、食用油の流通管理が厳格化され、密閉できるペットボトル容器の需要が高まっている。同社は10年余り前から現地の食用油メーカー各社に成

形ラインを納入。1・8リットルから5リットルまで、年間数万台ずつ出荷してきた。今回、業務用などで10リットル入り容器の量産化の相談を受け、新機種を開発した。これまで、飲料、食品、化粧品などの各メーカーに成形機を納入。ペットボトル成形技術を応用し、点滴容器やプラスチック製消火器の開発にも携わった。2014年には40リットルの工業用大型容器の成形機も開発した。食品用では、自社製品はこれまで最大5リットルに対応していたが、新機種で超大型化を実現。中村喜則社長は「多分野で顧客の要望に応じてきた実績や技術が応用できた」とし、「これまで手掛けた大型容器の成形機販売にも弾みがつく」と見込んでいる。